

## 谷川連峰 馬蹄形 半周

天神平～右回り清水峠～土合



★2019年4月13日～4月14日

CL 佐藤健 森田 小宮山 江橋 松本 (記)

●13日 7:50 天神平→10:20 トマの耳→11:50 一ノ倉岳→12:35 茂倉岳→15:00 武能岳→  
16:00 蓬ヒュッテ 幕営

●14日 3:00 起床→5:10 スタート→6:20 セツ小屋山→7:20 清水峠→10:30 鉄砲尾根 1354m→  
16:50 土合橋付近

無雪期でも相当キツイと有名な谷川の馬蹄形、この時期に！？と言う声も聞こえた中、3日前の降雪でさらにハードルは上がってしまったが、1日目は好天予報だったので決行！となった。ロープウェイを使い大勢の人で賑わう天神平からスタート。心なしか人の視線が我々の背中のザックに注がれていた、気がする。過去に西黒尾根から踏破しているSTリーダーはいつになくハイペース、私はトマの耳までの登りですすでにバテ気味。ここまでで全体の何パーセントくらいですかね？と質問し皆から白い目で見られた、気がする。しかし行動食を入れた後は、この冬イチの絶景に気分爽快。もしかして清水峠まで行けちゃうんじゃない？とか大きな口をきいて、秋にお見事踏破しているKmちゃんの失笑を買った、気がする。



だいたいの登山者は奥の院でピストンしていたが、1組テント装備で平標方面へ行った人もいたようだ。一ノ倉岳までは岩が露出したトラバースがあるので慎重に通過。次の茂倉岳までは、ドローン撮影しているカッコいいボーダー、パラグライダー、ゴーグルわんこ、とテレビで見るメジャー雪山の光景を間近で見られて飽きない。ところが茂倉岳から先は急に人がいなくなり歩き辛くなる。まずEさんが笹に滑り、その上から私が滑る。

笹平から武能岳へ進む尾根・・・踏み抜き、クラックと予想外トラップの連続で気が抜けない。  
薄くついてきたスキーマのトレースは、有難い反面、あてにしていると谷へ導かれたり足の届かない程  
深い落とし穴にハマったりする。荷物ともども重い男性は相当疲れたことでしょう。  
そしてドドンと存在感のある武能岳・・・山頂直下の急登は口をきく事も出来ない程の集中力を要した。  
そんな調子で清水峠までは到底無理、蓬ヒュッテの近くにテントを立てる。



蓬ヒュッテは雪で中に入ることができませんでした

夕方穏やかだった峠は、谷川のおいしい水を作り終わる頃には強風が吹き荒れ、ブロック積んでおけば良かったと後悔  
するも目覚めた頃には風も止み、清水峠まで行って無理そうであれば国道方面にエスケープする予定で日の出とともに  
スタート。セツ小屋山あたりで馬蹄形を逆回りて来たソロ男性とすれ違う。人と会えてうれしい。



広い雪原を下って清水峠で小休止。天気は高曇りで予報だとこれから下り坂だ。

時間と体力、雪の状態等を考慮しここで馬蹄形を諦める。

GPS と地図で鉄砲尾根方面へ向かい湯檜曾川沿いに出て、巡視小屋を目指して歩き出す。

馬蹄形最果てからの道のりは長く 12 時間近くの行動時間となった。

危険な場所を避けながらのルートファインディング、グズグズ雪の長い斜面にステップを作ったのクライムダウン、雪渓を崩して沢に落ちないように巻いたり、シリセードするにも谷底へ落ちてしまいそうで勇気がいる。

そんな気が抜けない下山路を佐藤さんがずっとトップで進んでくれてありがとうございました。

壮大で美しい風景とは裏腹にあちこちに危険が潜む残雪の山を体で感じた盛りだくさんの二日間だったが、頼もしいメンバーと天候に恵まれたおかげで、次はぜひ無雪期に、、、

そしてまたいつか残雪期の馬蹄形にもチャレンジしてみたいと思ったのでした。

おわり



谷川のmatterホルンにも登ってみたい



朝の雪は締まっています歩きやすかった



セツ小屋山に現れたドラゴン



稜線に馳せる思いは多分みな同じ



踏み抜き注意↑



←目覚めた熊の足跡

